



産業・生活基盤設備 (インフラ)

ナバラは、第三次産業社会へ向けてバランスを失わないよう、他の自治州に比べゆっくりとしたペースで進歩しています。ここ数年サービス業は、国内総生産（GDP）雇用数に対するもっとも主要な分野になっています。さらにナバラは、人口が広く分散していますが、現代にふさわしいインフラ網をとおして、州の結びつきをスムーズにしています。

ナバラの道路全距離 3,636 キロメートルのうち、209 キロが有料高速道路と無料高速道路、540 キロが一般道路、457 キロが州道、そして 2,427 キロが地方道です。人口集中地域はすべてこの道路網に直接つながっています。またこの道路網は、パンブローナからウエスカ、サラゴサ、ログローニョ、ピトリア、サンセバスチャン、そして国境のイルンへ放射状に広がっています。中でももっとも重要な軸は、アラサスア - パンブローナ - トゥデラ間、ログローニョ - トゥデラ間、そしてパンブローナ - エステーリャ - ログローニョ間の三つです。ナバラ高速道路は、パンブローナ（イルルツン）の北と河岸地域（トゥデラ）をつないでおり、そこからエプロ高速道路を通過して、サラゴサ、地中海へ達します。

現在使用できる無料高速道路は、サンセバスチャンと国境のイルンへ向かうイルルツン - ギブスコア県端、ピトリアとそこからブルゴスに至るイルルツン - アラバ県端、現在建設中で間もなく開通するエステーリャ経由のパンブローナ - ログローニョ間、さらに交通容量の大きい軸としてパンブローナ - トゥデラ - メディナセリ - マドリッド間が計画されています。州都の北、東、西道路網はパンブローナの交通渋滞を緩和しています。エスカバトンネル、ベラテトンネルのある北道路網は、パンブローナ - イルン間の交通量をスムーズにしています。またエウギを通るパンブローナ - フランス間は改善され、エプロ軸ルートは拡張されました。またイエサダムの増水を考慮して、パンブローナ - サングエサ - ハカ間の無料高速道路が建設されています。主要な町を結ぶ幹線道路バイパスも次々と着手されています。

鉄道交通としてナバラには、パンブローナを経由するサラゴサ - アルサスア間 175 キロがあり、2006 年には、ナバラの新しい高速路線として開通する見込みです。これによりパンブローナ - マドリッド間は 3 時間足らずとなり、ますますナバラが近いものとなります。

航空網としてナバラには、パンブローナ

から6キロの距離にあるノアインに空港があります。空路はマドリッド、バルセロナ、他のスペイン主要都市とを結ぶ国内便が基本ですが、毎年利用客の数が増えており1年間に30万人を超えています。

水供給網、排水設備、都市固形廃棄物問題に対する解決策など他のインフラについては、それぞれの地域にあるムニシピオ共同体の公共サービスが請け負っています。



過去から現在へ

“モデリカ”というのは、パンブローナとその近郊の共同体で、人口の75%が任意に参加しているリサイクル用の選別ごみ収集システムを導入しています。

また灌漑面積を増やし、特に最近最低水位について述べられているナバラ住民の飲料水を保証するイトイツ-ナバラ水路貯水群の存在も述べるべきことでしょう。



イラティの森
ブナの森